

研究協力をお願い

昭和医科大学藤が丘病院消化器・一般外科では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

昭和医科大学藤が丘病院消化器・一般外科における腹壁癒痕ヘルニア手術治療成績
1. 研究の対象および研究対象期間 2016年1月から2026年12月に昭和医科大学藤が丘病院消化器・一般外科で腹壁癒痕ヘルニア手術を受けられた方
2. 研究目的・方法 腹壁癒痕ヘルニアに対する標準手術治療は定まっておらず、現状施設毎によって治療法が異なります。近年では低侵襲治療として腹腔鏡下手術症例が増加していますが、治療成績に関しては報告が少なく、症例の蓄積が必要と考えます。昭和医科大学藤が丘病院消化器・一般外科では、腹腔鏡を用いてヘルニアの入り口(ヘルニア門)の縫合閉鎖を行い、加えて腹腔内メッシュ(網目状の人工補強材)留置を行う『IPOM-plus法』という術式を標準治療として行ってきました。近年では、腹直筋と後鞘・腹膜との間にメッシュを留置する『eTEP-RS法』という最新の術式も取り入れております。また巨大な症例に対しては、開腹での『TAR法(腹横筋をリリースすることでヘルニア門を閉鎖し、かつ腹壁筋後面にメッシュを留置する方法)』を行っております。腹壁癒痕ヘルニア治療成績を後方視的に把握し、治療の妥当性を検証することを目的としています。 *IPOM: Intraperitoneal Onlay mesh eTEP-RS: extended totally extraperitoneal-Rives Stoppa TAR: transversus abdominis muscle release
3. 研究期間 昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2027年12月31日まで
4. 研究に用いる試料・情報の種類 電子カルテにある下記情報を使用します。 患者背景(年齢、性別、身長、体重、BMI、PS、ASA、既往歴、内服薬、診断名) 手術詳細(施行術式、手術時間、出血量) 治療成績(合併症・偶発症の有無、在院日数、再発の有無) 臨床検査データ(血算、生化、凝固、CT所見、呼吸機能検査)を調査項目とします。

5．外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6．研究組織

研究責任者 昭和医科大学藤が丘病院消化器・一般外科 原田 芳邦

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学藤が丘病院（医学部外科学講座消化器・一般外科部門） 氏名：原田 芳邦

住所：〒227-8501 神奈川県横浜市青葉区藤が丘 1-30 電話番号：045-971-1151（内線 5962）